

Action (アクション)

令和2年 8月

岡山教育事務所生涯学習課

～ できることを あるものを使って 今いるところで はじめよう ～



「新型コロナウイルス感染症」をテーマに子どもと大人が熟議

8月1日、早島町で「第11回教育のまち・はやしま意見交流会（熟議）」が行われました。早島町では、子どもと大人が熱心に話し合うこの熟議が平成28年度から年2回開催されています。

今回は、「**新型コロナウイルスが教えてくれた人権尊重とは**」と「**新型コロナウイルス感染流行後の社会で私たちはどう生きるか**」の2つのテーマについて、自分たちの考えを伝え合い、考えを広げ、深め合いました。「新型コロナウイルス感染症（以下『コロナ』）」から何を学び、どう生きていくのかについて小学生から大人まで熱心に話し合う姿を取材しましたので紹介します。



「人が差別や偏見を創り出す。正しい認識をもち、それを解消するのは人ではない。」

「自分や家族が感染したことを考え、相手の気持ちを思い、助け合いたい。」

「情報を発信する自分の行為に責任をもつ。」

自分が気付かなかったことや思ってもいなかった意見を知ることができました。今回は助けてもらってばかりだったので、次回も参加して、次は助ける側になりたいです。



小学生

今回は身近にあるコロナがテーマということで、様々な立場、職種の方の意見を聞き、自分の考えを深めることができました。自分のこれからの生活の仕方や生き方について見直していきたいです。



中学生

とても有意義な時間になりました。子どもたち一人ひとりが考え、自分の意見を発信する姿を見て、早島の未来が楽しみになりました。「コロナと人権」というテーマで世代を超えて交流できてよかったです。



地域住民

世代を超えた熟議に参加して、ここまで考えさせられるとは思いませんでした。コロナと共に生きる時代が新しい視点で楽しみながら生きたいとさえ思いました。私の子どもも大きくなったらぜひこの熟議に参加させたいです。



地域住民

高校生が司会や受付、意見のまとめ役と大活躍で、11回目を迎えた熟議の歴史と世代を超えた早島愛を感じました。今回の熟議を踏まえて、学校・PTA・地域・職場等のそれぞれの立場でできることから取り組んでほしいと思います。



教育長